

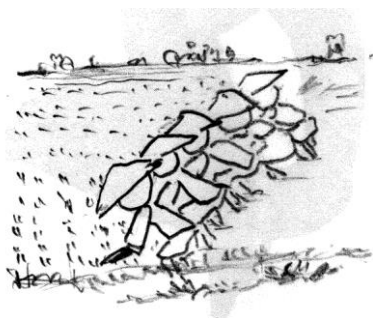
藤田浩子の 少し昔のこと 〈100〉

米作り

イナゴの話から、米作りの話に移ります。私は田植えも稲刈りも一度も経験したことがありません。田んぼの近くに住んでいて、農家の方々が苦労されているのは見てきましたが、自分ではやったことがないのです。けれど、お手玉遊びをしながら、米作りの歌は歌ってきました。「米という字をほどいてみれば 八十八と読めます 読めます」「米を作るにゃはるなつあきふゆ 八十八の手間かかる 手間かかる」という歌です。

ではその八十八の手間とは具体的には何かというと、まず冬の間に、植える米の種類を決める。それを育苗箱に蒔く。

15センチほどに育てる。初午様のお祭りをして田の神でもある山の神を起こす。田んぼの荒起こし前に水口に葉っぱや投



げ捨てられた缶などが詰まっていないか調べる。荒起こしは固まった土をこまかくしていく作業（トラクターがない時は手馬鍬や牛馬を使っでの作業だった）。田んぼの壁を水が漏れないように畦塗り（これも腰が痛くなる仕事）。田植え。草取り。農薬散布。追肥。刈り取り。乾燥。稲扱（こ）き、脱穀。粃摺り、袋詰め。大雑把に数えてこれだけの手間がかかったのだそうです。が、今は育苗から全て機械、畦塗りも田植えも除草も刈り取りも乾燥も袋詰めまで、すべて機械でやっているから、昔のように腰を曲げる作業も少ない、爺ちゃん婆ちゃん母ちゃんの三ちゃん農業でも、務めながらの兼業農業でも米作りはできるのだと農家の方に伺いました。むしろ今でも手作業の多い果物作りのほうが手間がかかるのだそうです。でも、仕事は機械化されても、天候まで調節することはできません。雨が降らなくても困るし、降り過ぎても困るでしょう、気温が低過ぎても高過ぎても困るのです。昔の雨乞い踊りの写真を見ながら、天候相手の仕事は大変だなあと思うだけの私です。

リレー連載 <233>

わたしの大好きな絵本

Jun chan (ベリーズ)

『ぼくがラーメンたべているとき』

作・絵：長谷川 義史

出版社：教育画劇

今普通にラーメンをすすっているとき
世界では何が起きているのか…

ラーメンが普通に家庭にあること、それはみんなは平和の中にいること、幸せなことなんだと教えてくれる絵本です。

この時期に年長さんに何度も読みました。読めば読むほど、じーんときます。



『夢わかば』

作：二本松はじめ 絵：田村太

出版社：音楽センター

子どもが、お母さんのおなかに宿ってから、成長していく事を、木の成長と重ねて表現した絵本です。お腹に宿った種が、大地の栄養吸い込んで、この世に誕生！お日さま浴びて雨浴びてぐんぐん伸び、自分がどんな花を咲かすのか、力強く決められるように成長していくという歌いながら読むことができるお話です。



♪ 僕らは生まれてよかったよ、
僕らを産んでくれてありがとう ♪
と親は子どもの成長に改めて感動し、子ども達は
この世に誕生させてくれた事を知る、親子の絆が
深まる絵本です。